

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	宮崎県	事業実施主体	宮崎県 椎葉村	地域再生計画名	平家伝説が伝わる豊かな自然と神舞う神楽の里 椎葉再生計画
計画期間	R2～R6	評価責任者	椎葉村役場 建設課 道路管理グループ 課長補佐 椎葉 貴幸		

	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績						
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	目標 1	観光客の増加	103,949人	R1	117,000人	R4	99,578人	125,000人	R6	119,019人	×	指標総数	達成数	台風14号の影響により、国道327号、265号、388号及び県道142号の主要路線が被災を受けたこと、また令和6年に発生した台風10号により、村内へのアクセスが長期間にわたり出来なくなったため、観光客の減が生じた。
	目標 2	村営バスの所要時間の短縮	181分	R1	179分	R4	179分	177分	R6	177分	○	4	2	計画とおり目標達成できた。
	目標 3	間伐材搬出量の増加	4,100m3	R1	4,340m3	R4	3,071m3	4,500m3	R6	1,198m3	×			台風14号の影響により、国道327号、265号、388号及び県道142号の主要路線が被災を受けたこと、また令和6年に発生した台風10号により、村内へのアクセスが長期間にわたり出来なくなったため、搬出量の減が生じた。
	目標 4	木質バイオマス搬出量の増加	1,295m3	R1	1,358m3	R4	719.7m3	1,400m3	R6	2,105m3	○			計画とおり目標達成できた。
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標 1									-				
	指標 2									-				
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R4）	最終実績									
地域再生計画に記載がある特別の措置を適用して行う事業	村道整備事業（整備延長）		2.3km	1.458km	2.793km	今回の整備により、観光施設へのアクセスが良くなり観光客の増加につながったと考えている。ただ、幅員が狭く、危険な区間も多く存在することから今後も道路拡幅、法面防災などの事業を行う必要がある。								
	林道整備延長（整備延長）		6.5km	0.898km	2.487km	今回の整備により、道路機能が向上し安全性の確保が図られたことから、木材搬出量の増加につながったと考えている。ただ、幅員が狭く、危険な箇所、未舗装区間も多く存在することから、引き続き事業の実施を行いたい。								
その他の事業	森林整備事業		森林育成などの森林整備の実施			道路整備により、森林整備箇所までのアクセスが改善され、また木材搬出も容易になった。引き続き道路整備を行い、森林整備の向上を図りたい。								
	村道改良事業		利用者の利便性向上のための道路整備の実施			集落間及び林道に接続する村道の整備を実施しているが、未改良区間も多いことから、引き続き道路整備を行い利用者の利便性を向上させ集落間の交流及び山間部の観光の増に向けて事業を進めたい。								
	観光振興事業		観光ガイド育成などの観光体制整備の実施			観光施設までの道路整備を行うことで、利便性が向上し、観光客の増加に結びつくことが期待できる。								
計画外で独自に実施した事業														
④評価方法	椎葉村行政評価委員会の中で、最終目標値の実現状況に関する評価を行った。													
⑤事後評価の公表方法	椎葉村ホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に実施し、村道整備では整備が滞った年に年度間調整を行うなど整備段階にあわせた予算措置が実施できたが、相次ぐ台風の襲来による村内外への交通網の乱れが長期化するなどし、山間部での観光・交流人口の増などの目標が達成できない結果となった。しかし、復旧の進捗により観光・交流人口が増加傾向となっているため所期の目的を概ね実現できていけると考えている。													
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、円滑に整備が進んでおり、また山間部での観光・交流人口の増加等含め目標のほぼ達成が見込まれる。引き続き山間部での森林整備や観光・交流人口の増を図るために、災害に強い道づくりを意識しつつ効果が高い箇所の道路整備を実施したい。													